

## ～倶楽部創立25年によせて～

### <その2：クラフト部会の成り立ち>

#### 倶楽部創立20周年記念誌から抜粋

#### 【部会発足の経緯：2003年スタート！】

もりメイト倶楽部が発足してまもなく、例会で間伐、下草刈り、里山整備と作業をこなしている合間に、木の蔓でカゴを編んだり、小枝のついたヒノキの皮を剥いて乾燥させて白木ツリーにしたり、作業で出た材料を利用したりとクラフト工作が楽しみになってきた。そんな中「間伐部会」、「里山部会」と目的を持った部会活動がはじまり、クラフトについても「ただ山で作業をするだけでなく自然の物を活用して作る」また、そのために人々が集まることも含めて活動していこう、という事で平成15年(2003年)に「クラフト部会」はスタートした。

部会として最初の活動は平成15年10月25日に白木町北田城跡で開催された森の音楽会。その時に演奏していただいた広島市立舟入高校ブラスバンド部の皆さんにお礼として「状差し」を作り贈呈することから始まる。

クラフト部会は、例会その他の部会活動で生じた材を有効利用することを目的としています。森林の重要性と現状を世の中に伝えるツールとして、今やなくてはならない存在です。倶楽部内での活動はもちろん、外部からの要請を受け、製作・指導を行っています。佐藤部会長は4代目の部会長。



北田城にて開催の森のコンサートで演奏する舟入高校吹奏楽部のお土産「状差し」づくりにも励む。2003年

#### 【クラフト部会 活動の広がり】

まず、施設やイベント等の視察から始まり、平成16年広島市環境局中工場のエコ祭り、平成17年島根県邑南町の香木の森公園、**平成18年**三次市のウッドピアなど研修場所も拡大、少しずつ出向いて指導もする様になって行った。平成22年に美鈴が丘工房に拠点を移し、最初はノコ、小刀、接着剤、グルーガンなど小さな工具を使っていたが、徐々に大きな工具も揃えられるようになり、扱う材も大きなものが加工できるようになっていった。**平成19年**からは環境教育研究部会が発足し、自主事業である「子ども森林ボランティア養成講座もりメイトキッズ」が開催されるようになると、クラフト作りの指導を担い、現在まで連携協力をしている。



干支シリーズは今も大人気！（酉）

**平成25年**「一般財団法人セブン-イレブン記念財団」の助成を受けエンジン式移動製材機を購入、機械も増えてきた。丸太運搬通路の確保、広い作業場所確保のため手狭になった作業場所を移転することになった。**平成28年**1月から製材機は湯来町麦谷の松波邸敷地へ、主要活動場所は安佐南区祇園山本町鹿ヶ谷のNPO法人里山環境保全みどり会所有地へ移転した。

#### 【達成感&満足感は子ども達の笑顔から】

子供たちの喜ぶ顔、ノコや金槌、ナイフを使ったことのない子供たちに教え、道具の使い方など技術向上と同時に、間伐材クラフトを通して森を知るきっかけになっている満足感！！

出来上がった作品を見て喜ぶ子供たちや家族の笑顔、持ち帰りができる喜び、指導する方も喜びを受け取る。間伐利用は森の重要性を伝える手段。使命を果たす役割を担う達成感！！

《歴代部会長 初代：山田正延 2代：磯貝定教 3代：本廣良一》

～～「20年の歩みとこれから」20周年記念誌より～～



子ども達の笑顔がエネルギー源。もりメイトキッズにて